

プログラム

1. SUZUKI Toru (National Institute of Population and Social Security Research)
Introduction: Trends of Domestic and International Migration in Eastern Asia
 2. CHO Youngtae (Seoul National University)
Can Korea Ever Become a Multi-cultural Society?
 3. LIN Ji-Ping (Academia Sinica)
The Role of Migration in Shaping Taiwan's Contemporary Population and Health Care Policy in the Context of Ageing Population
 4. MA Xin-Xin (Hitotsubashi University)
Domestic Migration and Discrimination against Migrants in China
 5. CHEUNG Paul (National University of Singapore, JSPS Fellow)
Population Ageing and Replacement Migration: Perspectives from Singapore
- Comments:
HAYASHI Reiko (National Institute of Population and Social Security Research)

鈴木報告は日本・韓国・台湾・中国・シンガポールの低出産・高齢化と国内・国際人口移動を概観した。Cho（曹永臺）報告は韓国の外国人人口の動向と展望を分析した。Lin（林李平）報告は台湾の人口移動と高齢者介護の関連を扱った。Ma（馬欣欣）報告は中国の農民工の都市流入と戸口制度の問題点を分析した。Cheung 報告はシンガポールにおける移民政策の問題点を指摘した。林玲子国際関係部長によるコメントに続きフロアからも活発な質問があり、有意義な討論が行われた。

（鈴木 透 記）

順天堂大学「持続可能な高齢化社会」フォーラム

2016年12月17日、東京都千代田区御茶ノ水の順天堂大学にて、「持続可能な高齢化社会」フォーラムが行われ、日本とシンガポールにおける人口高齢化およびその対策の概況および、日本における自治体（愛知県東郷町）や企業の取り組みについての講演が行われ、筆者も「健康をどう測るか～その推移と展望」と題する講演を行った。特にシンガポールの概況は、前国連統計局長のポール・チュン国立シンガポール大学教授が、SDGs（持続可能な開発目標）という文脈における持続可能な高齢化について問題提起し、アジアではいち早く1986年に少子化対策を打ち出したシンガポールにおける課題についても議論された。会場からは、学生から先進の高齢者のまちづくり事業などと共に、高齢者の貧困にどう対応するのか、という質問などが提起された。

（林 玲子 記）

「高齢化する日本と外国人ケア人材」ワークショップ（長野県木島平村）

2017年1月22日に「高齢化する日本と外国人ケア人材」ワークショップが、長野県下高井郡木島平村の木島平村若者センターで開催された。このワークショップは、神谷浩夫教授（金沢大学）の科研費研究グループが主催し、インドネシア、フィリピン、ベトナムからの研究者による報告の他、日本人研究者によるドイツの外国人介護事情、名古屋地域の介護サービス業の雇用事情などの報告が行わ

れるとともに、活発な議論が行われた。当研究所からは林玲子（国際関係部長）、小島克久（同部第2室長）の2名が参加し、林が以下の報告を行った。

林 玲子（国際関係部長）「各国のケア人材国際移動の現状」“The actual situation of international migration of care personnel”

（小島克久 記）

フランス国立人口研究所（INED）訪問

社人研は2016年8月に、フランス国立人口研究所（L'Institut National d'Études Démographiques：INED）と研究に関する協力覚書を調印した。INEDは1945年に創設されたが、その後1951年に旧人口問題研究所の岡崎文規所長が視察・訪問するなど、社人研との関係は長い。筆者は2017年1月26日にINEDを訪問し、マグダ・トマシニINED所長、ウィリアム・モルミー国際関係協力部長および同部スタッフと面会し、協力覚書に基づいた今後の活動などについて協議した。現在、社人研とINEDの共同研究として、石井太人口動向研究部長、是川夕人口動向部主任研究官、社会保障応用分析研究部大津唯研究員らが死因研究プロジェクトを行っており（MODICOD）、引き続き今後の共同研究の拡充・深化が期待される。

（林 玲子 記）

マンチェスター大学

「戦後日本の少子高齢化に関する政策と実践に関する日英セミナー」

2017年1月28日、英国・マンチェスター大学は、日本学術振興会の支援を受け、「戦後日本の少子高齢化に関する政策と実践に関する日英セミナー」を開催した。セミナーはマンチェスター大学保名綾博士により企画され、日本の少子化対策、優生・優境政策、介護施策、人口政策を専門とする日本人、英国人研究者が参集し、報告・議論が行われた。筆者は20世紀における日本の人口政策、特に出生関係の施策の変遷について報告した。少子高齢化は現在進行形であり、現実的な問題解決が研究対象となることが多いが、歴史的な視点から施策をとらえ直し、かつ日英の比較も含めて状況を俯瞰する機会が与えられ、有意義なセミナーであった。

（林 玲子 記）

ドイツ連邦人口研究所（BiB）訪問

ドイツ連邦人口研究所（Bundesinstitut für Bevölkerungsforschung：BiB）はドイツ・フランクフルトから40km程度西に位置したウィースバーデンにあり、ドイツ連邦政府に属した国立研究所で、ドイツ連邦統計局とのつながりが深い。筆者は2017年1月30・31日にBiBを訪れ、社人研の紹介をすると共に、ノルベール・シュナイダー所長およびフランク・スワイアシュニー人口変動・世界人口研究グループ長および同グループスタッフと研究協力および国連人口開発委員会などに関する意見交換を行った。ドイツには、マックス・プランク人口研究所もあるが、マックス・プランクと比べBiBは連邦政府により近い組織であり、ドイツ政府に対する政策提言なども主要な業務の一つであるとのことであった。

（林 玲子 記）